

# 令和元年度における大竹市の決算状況

## 1 収入及び支出の状況

令和元年度の一般会計並びに特別会計の決算における収入・支出は、第1表、第2表のとおりです。

一般会計における歳入総額は、145億2,496万7,789円（対前年度比1.0%増）、歳出総額は、139億5,981万5,080円（同比2.6%減）となり、歳入は前年度を上回り、歳出は前年度を下回りました。

形式収支は、5億6,515万2,709円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源4億6,697万8,233円を差し引いた残額、すなわち実質収支は、9,817万4,476円となりました。

### （1）歳入の状況

財源の根幹となる市税は、固定資産税が約7,874万円、法人市民税が約1億38万円減少したこと等により、市税全体で約1億6,027万円（対前年度比2.9%）の減となりました。

また、地方交付税は約1億6,299万円（同比12.0%）の増、地方消費税交付金は約2,059万円（同比3.9%）の減となりました。

市債は、本庁舎耐震改修事業債の増額があったものの、可燃ごみ広域処理事業債や市道改良事業債の減額により、約7億5,625万円（同比31.0%）の減となりました。

### （2）歳出の状況

歳出は、「住みたい、住んでよかったと感じるまち」をまちづくりのテーマとした第五次大竹市総合計画「わがまちプラン」のもと、「大竹市が笑顔や元気がかがやいているまち」になるよう、次の事業に取り組みました。

- ① 大竹を愛する人づくり
- ② 生活基盤が整ったまちづくり
- ③ 安全なまちづくり
- ④ 安心できるまちづくり
- ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり
- ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

#### ① 大竹を愛する人づくり

大竹を愛する人を育てることは、大竹が好きな人をつくることであり、まちづくりに自覚と責任が持てる人を増やしていくことでもあります。これがまちづくりの推進力となるという視点に立ち、事業を実施しました。

主な取り組みは、読書活動推進員の配置による「**読書活動推進事業**」、学級支援員の配置による「**環境学習サポート事業**」などにより教育環境の充実に努めました。

## ② 生活基盤が整ったまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に最初に考えるのは「そこに働く場所があるか」、「働く場所からどれくらいの距離があるか」という生計に関連したことや、基本的なまちの機能である生活環境についてではないかという観点から、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**大竹駅周辺整備事業**」として、自由通路の詳細設計や補償工事を実施したほか、駅舎テナントに対して工事に支障となる物件の補償などを行いました。

## ③ 安全なまちづくり

人が「ここに住もう」と決定する際に、次に決め手となるのは「災害や犯罪、事故、火災などに対して、安全が確保されているか」ではないかという考えから、どのようにして市民の安全を確保するかという視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**消防力強化事業**」として、大型化学消防ポンプ自動車を整備しました。

## ④ 安心できるまちづくり

「安全」の次に重要なのは、ライフステージのそれぞれの段階での社会保障制度、つまり、高齢者福祉や児童福祉、医療体制などの充実ではないかと考え、事業を実施しました。

主な取り組みは、「**私立保育所等整備事業**」として、玖波保育所の耐震改修工事とひまわりさかえこども園の園舎改築・大規模修繕工事に対して補助金を交付しました。

## ⑤ 心にゆとりを感じるまちづくり

人が最終的にまちに求めるものは、「ゆとり」や「豊かさ」、「生きがい」など、生活の質の向上ではないかと考え、「生涯を通して生きがいを持ち、生き活きとこのまちで暮らしてほしい」という視点で事業を実施しました。

主な取り組みは、「**大竹会館改築等事業**」として、公共施設の規模適正化、防災拠点機能の強化、利用者の利便性の向上を図るために、耐震性に問題のある大竹会館の旧館と新館の解体及び建て替えに着手しました。

## ⑥ 行政・社会の仕組みづくり

総合計画に連なるすべての施策を実施するには、「ヒト（人的資源）・モノ（物的資源）・カネ（資金）」に代表される地域資源が必要です。「地域資源をいかに有効に使い、実りの多いまちづくりをする」という視点と、健全な行財政運営を推進し効率的で投資的効果の高いまちづくりを目指し、事業を実施しました。

主な取り組みは、「まちづくり基本構想等策定・推進事業」として、市民と行政がともに目指す未来に向け、協働してまちづくりを進めていくための新しい指針となる大竹市まちづくり基本構想の策定に着手しました。